

寒川文書館だより

Vol. 25



扇型栓抜（寒川文書館所蔵）

■第25号目次■

資料紹介「町制30周年の記念品」	2
編集委員を委嘱／ホームページを改訂	3
三枝マッチコレクションのデジタルアーカイブ	4
企画展「平成をふりかえる」	6
文書館の最近の出来事	7

第25号
2019.3.31
寒川文書館

町制30周年の記念品

表紙に掲載した写真は、扇の形をした栓抜きである。一風変わったデザインの栓抜きは、昨年度町民の方から寄贈していただいた。この栓抜きはいったい何なのだろうか。小文では、町の公文書などを手がかりに、この疑問に迫ってみたい。

栓抜きには、「延寿」「末広」「寒川町々制三十周年記念」と金字で記されている。この文字から町制30周年を記念した品物ということは容易に想像がつく。寒川町は昭和15年に町制を施行、昭和45年に町制施行30周年を迎えた。町はこの記念すべき年に、記念式典(11月1日)・勤労者レクリエーション大会(10月25日)・文化講演会(11月3日)・商工まつり(11月1日～3日)・芸能祭(11月1日)などの各種イベントを実施。町はお祝いムードに包まれた。

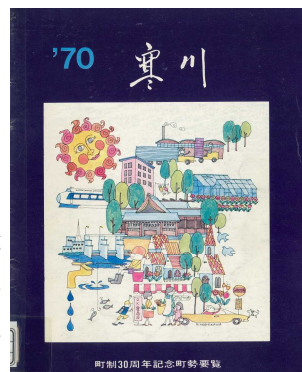
『広報さむかわ』126号(昭和45年11月)には、30周年に関する記事が掲載されている。そこには「町では、この年を記念し、式典をはじめ各種行事を開催、町勢要覧及び記念品の配布が行われました」という一文が記されている。この記事によると、30周年を記念して、町勢要覧と記念品が配布されたことがわかる。しかし記念品の内容についての記述はなかった。



寒川中学校で行われた記念式典の様子(当館蔵広報写真)

それでは誰に何を記念品として配布したのだろうか。町の公文書に手がかりを求めてみよう。「町制施行30周年記念行事」(寒川町公文書)は、総務課

が昭和45年度に作成した記念事業の準備や運営に関する文書を綴じた簿冊である。そのなかに、寒川町長高橋誠から自治会の各区長に宛てた依頼文がある。同文書は「町制要覧、記念品入りの袋」の各戸への配布することを依頼したものである。つまり「町制要覧、記念品入りの袋」は、自治会を通じて町内全戸に配布されたのである。また、町内企業などにも配布をした形跡が確認できた。しかし惜しいかな、記念品の内容について記された文書はなかった。



『30周年記念町勢要覧』

次に「昭和45年度一般会計歳出整理簿」を確認した。総務費の予算のなかに「町制30周年記念式典費」という費目があり、その12月1日の支出に「記念品扇型栓抜外3件代」との文字を確認できた。つまり記念品は「扇型栓抜」であったのである。支払先は「志澤宏一氏」とある。これはおそらく、百貨店の「志澤」だと思われる。「志澤」は小田原市を本拠に神奈川県南西部で展開した百貨店である。昭和45年時には平塚店もあり、町はそこから調達した可能性が高い。

小文では、寄贈品の栓抜きと町の公文書から地域の歴史の一コマを立体的に復元することができた。些細な出来事かも知れないが、地域の歴史を彩る一コマには違いはない。

町は、来年2020年に町制施行80周年を迎える。次はどのような地域の歴史が刻まれるのであろうか。

(平尾直樹)

編集委員を委嘱

町史編集委員会では、『町史研究』『調査報告書』の編集方針の検討や、執筆、編集作業を行っています。専門的な知識を要する編集委員には、歴史学の専門家に委嘱しています。このほど3年の任期が終了したため新たに下表の方々に委嘱しました。なお30年以上にわたり委員を務めていただいた木村勇氏（考古）は、前任期をもってご勇退されました。長い間、ご尽力を賜りましたこと深く感謝申し上げます。



委嘱式での町長あいさつ

担当分野	氏名(敬称略)	備考
宗 教	圭室文雄	明治大学名誉教授
考 古	鈴木保彦	前日本大学教授
古代・中世	鳥養直樹	前文教大学講師
近 世	大口勇次郎	お茶の水女子大学 名誉教授
近 現 代	内海孝	東京外国語大学 名誉教授

任期：2018年12月20日～2021年12月19日

ホームページを改定



平成30年10月に文書館のホームページをリニューアルしました。デザインを一新し、内容の充実もはかりました。なかでも資料検索システムは大幅に改訂し、古文書の検索も可能となりました。これにより従来はできなかった資料群を超えた横断検索ができます。ぜひお試し下さい。

館だよりを配布中



『寒川文書館だより』は、平成19年3月31日に創刊号を発刊しました。以来、年2回発行し、本号で25号となります。これまで資料にまつわる話題や、館事業の足跡をお伝えしてきました。これからも同様に発信していきます。

創刊号から最新号まで当館で配布中です。ご自由にお持ち下さい。

三枝マッチコレクションのデジタルアーカイブ

三枝マッチコレクションとは

寒川町岡田の三枝惣治さん(故人)さんが、昭和30年代から50年代にかけて収集したコレクションです。マッチは展開され28冊のアルバムに貼付されています。総数は約6,500点。そのマッチラベルの収集範囲は、町内や近隣市町村だけではなく全国に及びます。時の世相や、流行がうかがえる興味深い資料群です。



デジタル化・公開事業

「マッチラベルコレクションのデジタル化・公開事業」は、(公財)図書館振興財団の助成金を受けて実施しています。同事業は3カ年計画。事業は①公開、②普及、③保存の3つに大別できます。年度別の事業計画は下表のとおりです。①の公開事業であるトリミング作業およびページの作成は、TRC-ADEACに委託しました。

		平成29年度	平成30年度	平成31年度
公開事業	神奈川県分	トリミング	ページ作成→公開	
	県外分		トリミング	ページ作成→公開
普及事業			講演会・刊行物	
保存事業				中性紙箱に収納

デジタルアーカイブの公開開始



デジタルアーカイブのトップページ



平成30年12月1日よりデジタルアーカイブの公開を開始しました。第一弾として神奈川県内の店舗2,370点を公開中です。

デジタルアーカイブ公開記念講演会

平成30年12月2日に講演会「昭和の広告マッチラベルー集める愉しみ・学ぶ喜びー」を総合図書館会議室で開催しました。この講演会はデジタルアーカイブの公開記念として実施したもので、デジタルアーカイブの制作会社【写真①】、マッチの収集家【写真②】、歴史学者【写真③】にそれぞれお話をいただきました。



【写真①】

デジタルアーカイブ「三枝惣治氏マッチラベルコレクションについて」

羽田野理子氏・太田亮子氏(TRC-ADEAC(株))



【写真②】たるみ燐寸博物館はいかにして鍛えられたか

小野隆弘氏(たるみ燐寸博物館)

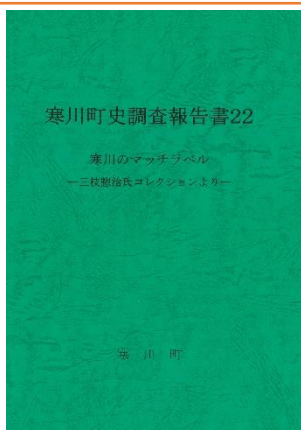


【写真③】マッチラベルと寒川地域経済

内海孝氏(東京外国語大学名誉教授)

三枝マッチコレクションに関する刊行物

①



寒川町史調査報告書 22
平成 29 年 3 月刊
142 頁/500 円/B5 版

②



寒川町史研究 30
平成 31 年 3 月刊
93 頁/500 円/A5 版

①寒川町内のマッチラベルをカラーでご覧いただけます。また、県内のマッチラベルの目録も掲載しています。

②特集として「マッチラベルのデジタルアーカイブ」を組みました。上記講演録や、明治期のマッチ産業にまつわる資料紹介を載せています。

寒川文書館第28回企画展 「平成をふりかえる」

平成という時代が終わりを迎えようとしています。この30年間、世界で、日本で、そして寒川では、どのようなできごとがあったのでしょうか。

この企画展は、寒川総合図書館と寒川文書館が合同で開催しました。図書館の資料からは、平成のベストセラーや世相を反映する本、CDを並べ、寒川のできごとについては、文書館所蔵の写真と年表パネルでご紹介しました。

会期：平成31年1月5日～3月30日 会場：総合図書館1階展示室

＜展示構成＞

はじめに

年表と写真でふりかえる

世界・日本・寒川の出来事と流行語

ふりかえろう今年の漢字

話題の本でふりかえる

出来事・流行したファッション・料理・音楽

話題の音楽でふりかえる

レコード大賞受賞曲CD

いくつご存じですか

朝の連続ドラマ小説編 大河ドラマ編

平成に起きた自然災害

平成元年 寒川の風景

みんなで予想しよう！次の元号は何か？



平成30年の出来事・流行語



平成元年 役場北側の水田（現・さむかわ中央公園）



平成23年の
「今年の漢字」



展示風景



みんなで予想しよう！次の元号は何か？

文書館の最近の出来事

資料保存ワークショップ 10月14日・12月9日



ワークショップの様子



資料の解説をする多和田雅保さん(横浜国大)

神奈川県資料保全ネットワークとの共催事業となります。3回目の開催となる今回は、①襖の下張文書を剥がすワークショップ(シンコースポーツ寒川アリーナ)、②取り出した資料の解説(総合図書館)、という2回の連続講座としました。参加者の皆さんに資料保全作業の一端を体験していただきました。

全史料協全国(沖縄)大会 11月8日・9日



大会テーマ報告の総合討論の様子

全史料協全国(沖縄)大会に参加しました。今回の大会テーマは「アーカイブズ再考-その価値と活用-」。人びとの権利とアーカイブズ、アーカイブズと人びとを身近なものにするデジタル化の技術、などについて議論が交わされました。視察では沖縄県公文書館と南風原文化センターを訪れました。

ミニ展示「亥年のできごとー公文書が語る現代史9ー」



展示会場の様子

平成31年の干支は亥。過去の亥年には、関東大震災(大正12年)、寒川中学校の開校(昭和22年)、WAKUWAKU体操の完成・披露(平成19年)など諸々のできごとがありました。当館収蔵の亥年にまつわる資料から、町の事業やできごとを紹介しました。

【会期】2019年1月15日～3月30日

今後の事業予定

■2019年度の事業予定

○古文書講座「江戸時代の史料を読む」

新元号の幕開けにちなみ、改元や家の相続など「代替わり」をキーワードにした史料から、江戸時代や明治初期の人びとの暮らしや社会のしくみなどを、わかりやすく学びます。

日時：5月26日(日)、6月22日(土)、7月27日(土)、
8月24日(土)、9月28日(土)、10月26日(土)
の全6回、午前10時～正午

*5月のみ日曜日ですのでご注意ください。

会場：総合図書館3階会議室

申込み：広報5月号、ホームページをご覧ください。

○茅ヶ崎市寒川町広域連携事業

企画展「行政情報を伝える(仮称)」

茅ヶ崎市寒川町広域連携事業による展示の第5弾。「広報さむかわ」が創刊70周年を迎えることから、両市町の広報活動について、その足跡をそれぞれ紹介しします。

会期：2019年6月29日(土)～8月31日(土)

会場：寒川文書館／茅ヶ崎市文化資料館

関連企画：講演会や広報を読むワークショップなどを開催する予定です。日時、会場、申込み方法など、詳細が決まりましたら、広報、ホームページ、チラシ等でお知らせします。

☆さらに年度後半も、企画展、ミニ展示、講演会等を計画中です。皆さまのご参加をお待ちしています。

編集後記

「寒川文書館だより」第25号をお届けします。今号は平成30年度後半に実施した事業を中心にご紹介しました。この4月で「平成」という時代が終わりを迎えることから、1月より総合図書館と共催の企画展「平成をふりかえる」を開催しました。文書館は30年間の寒川のできごとを年表と写真で紹介し、図書館は世相を反映する図書やレコード大賞受賞曲のCDなど国内外の大きな動きのわかる資料を並べ、その場で貸し出しもできるようにしました。こうしたコラボレーションは複合館ならではの強みです。これからも連携を深めてまいりたいと思います。

利用案内

■開館時間

午前9時～午後5時

(平成30年7月から変更になりました)

■休館日

月曜日(国民の祝日にあたる場合は開館)

年末年始(12月29日～1月3日)

特別整理日(決まり次第お知らせします)

■交通のご案内

JR相模線 寒川駅下車 徒歩10分

寒川町コミュニティバス・

神奈中・相鉄バス 海老名駅～寒川駅線

「図書館文書館前」下車 徒歩1分

※なるべく公共交通機関が自転車、徒歩でお越しください。



寒川文書館だより 第25号

平成31年3月31日

編集・発行／寒川文書館

〒253-0106 神奈川県高座郡寒川町富山135-1

TEL 0467-75-3691 FAX 0467-75-3758

ホームページ <http://www.lib-arc.samukawa.kanagawa.jp/bunsho/>

電子メール bunshokan@town.samukawa.kanagawa.jp

ツイッター https://twitter.com/samu_archives